



手術部位感染

SSI(surgical site infection)について

皆さん、SSI(surgical site infection)という言葉をご存知ですか？

これは術後30日以内(人工物装着手術では1年)に発生する手術操作の及ぶ部位の感染であり、消化器手術における肺炎、尿路感染、血流感染などは遠隔部位感染と呼びます。分類は以下の通りです。

手術部位感染(SSI)

① 手術創感染：表層切開創

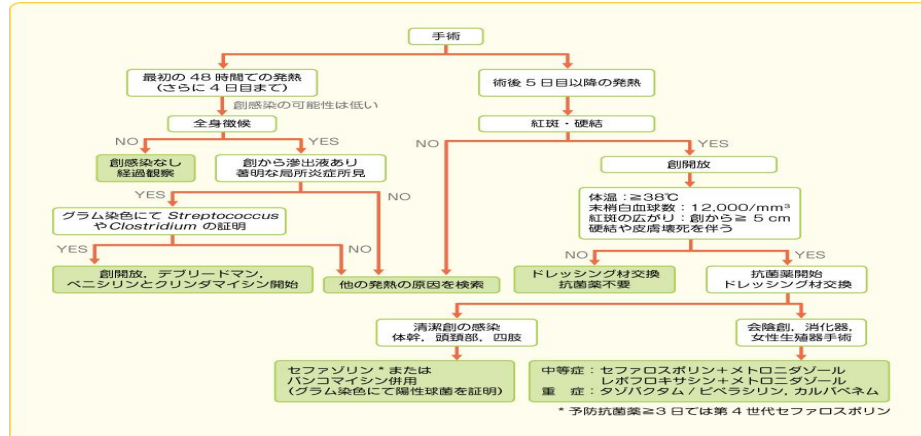
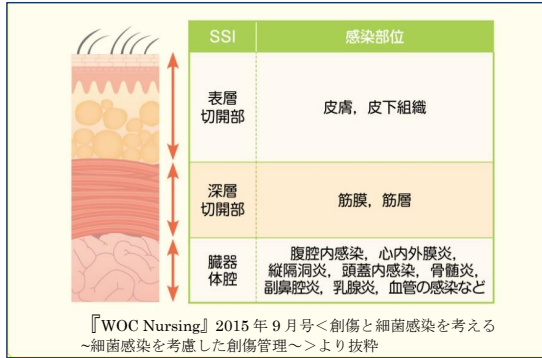
深部切開創

② 手術対象臓器/体腔の感染

発生率は手術の種類や部位によって様々ですが、例えば胃の手術では4.0%、直腸の手術では17.1%、ヘルニアの手術では0.4%とされています。さらに入院患者の院内感染の中で、SSIが占める割合は14~16%と言われ、なんと尿路感染に次いで2番目!さらに、手術患者の院内感染の中では38%と最も多く占めているのが実情です。

原因菌としては患者の皮膚についている常在菌、黄色ブドウ球菌が最も多いとされていますが、他に緑膿菌やエンテロバクター属、腸球菌も原因菌となり、近年ではESBL産生腸内細菌も問題となっています。

ではSSIを疑ったら、我々医療従事者は何をすべきなのでしょう?米国では米国疾病予防管理センター(Center for Disease Control and Prevention: CDC)がガイドラインを公表しています。では、それに基づいたアルゴリズムを見てみましょう。



Stevens DL, Bisno AL, Chambers HF, et al.: Practice guidelines for the diagnosis and management of skin and soft tissue infections: 2014 update by the infectious diseases society of America. Clin Infect Dis, 59: 147-159, 2014.

これらから言えることは、創部を見たら積極的に疑うことがまず大切であるということであり、さらにSSIを起こさないための手術前、手術中、手術後の予防策がさらに重要と言えます。

治癒が遅くなることで、最も負担がかかるのは患者様であり、病院にとっても、入院日数と医療コストが増えてしまうことも問題視されています。誰もが安心して手術を受けられる環境作りを目指しましょう。



感染予防対策表示の変更:ピクトグラム表示について

現在、感染経路別予防対策(接触・飛沫・空気)実施のため、対象患者把握の方法として、病棟MAP背景色と病室入口に「面会制限」と記したボードに色別シールを貼り表示する方法をとっています。しかし、4人部屋に1名だけ対象患者が入室している場合に病室入り口ボードに表示できないのが問題でした。(院内規定として赤:接触感染、緑:飛沫感染 黄:空気感染)

そこで、感染症表示に「ピクトグラム」を採用することになりました。4人部屋患者には頭上のホワイトボード右上にピクトグラムを表示するとともに病室入口の患者ネーム横にも白黒のイラスト印刷したものを表示します。患者ネームについては1月20日より開始しています。患者頭上ホワイトボードへの表示は2月中旬の予定です(マグネット版ピクトグラム作成中にて開始時には再度ご案内します)。なお、患者・ご家族に説明を行い表示するようお願いいたします。

ピクトグラム

接触感染対策		飛沫感染対策		空気感染対策	
通常の対策		アルコール無効な感染症 ノロウイルス・ クロストリジウムディフィシルなど			

ベッドネーム例



ピクトグラムとは、一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号(サイン)の一つである。1964年東京オリンピック開催時に外国語によるコミュニケーションをとることができ難い当時の日本人と外国人の間を取り持つために、開発されたのが始まり。